は

日 本 史 B 問 題

はじめに，これを読みなさい。

1. この問題用紙は 13 ページある。**ただし，ページ番号のない白紙はページ数に含まない。**
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか，受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい，解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は，すべて解答用紙の所定欄にマークするか，または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は，必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は，消しゴムできれいに消し，消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は，絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. **解答用紙はすべて回収する。**持ち帰らず，必ず提出すること。ただし，この問題用紙は，必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪 い 例
●	◎ ⊗ ●

〔Ⅰ〕 次のAからDの各文を読んで，それぞれの設問に答えなさい。答えは，解答欄に記入しなさい。

A

白河天皇は，1086(応徳3)年に幼少の堀河天皇に譲位した後も，自ら上皇として，院庁を拠点に，天皇を後見しながら政治の実権を握る院政を行うようになった。院政は，もともと自分の子孫の系統に皇位を継承させようとするところから始まったものであるが，白河上皇のあとも鳥羽上皇・後白河上皇と，三人の上皇による院政が100年余りも続き，法や慣例にこだわらずに上皇が政治の実権を専制的に行使した。

白河院政の実態について，北畠親房の『神皇正統記』は，次のように記している。

> 此御代ニハ院ニテ政(まつりごと)ヲキカセ給ヘバ，執柄(しっぺい)(a)ハタヾ職ニソナハリタルバカリニナリヌ。サレドコレヨリ又フルキスガタハ一変スルニヤ侍(はべり)ケン。執柄世ヲオコナハレシカド，宣旨(せんじ)・官符(かんぷ)ニテコソ天下ノ事ハ施行セラレシニ，此御時ヨリ［　(ア)　］・庁御下文(ちょうのおんくだしぶみ)ヲオモクセラレシニヨリテ在位ノ君(きみ)又位ニソナハリ給ヘルバカリナリ。世ノ末ニナレルスガタナルベキニヤ。

三人の上皇は，仏教に深く帰依し，出家して法皇となり，六勝寺など多くの大寺院を造営した。六勝寺とは，白河天皇の造立した［　　］，堀河天皇の造立した［　(イ)　］など，天皇家によって院政期に造営された「勝」の字がつく六つの寺を指す。

問(1) 下線部(a)の「執柄」とは，二つの官職のことである。二つの官職名を記しなさい。

問(2) 院政のもとでも国政は従来の太政官制に則って行われたが，『神皇正統記』に書かれているように，しだいに，上皇の意思を伝える［　(ア)　］や，院庁から下される文書である院庁下文が権威をもつようになった。空欄(ア)に該当する語句を，漢字2字で記しなさい。

問(3) 空欄(イ)に該当する寺院の名称を記しなさい。

B

1232(貞永元)年，北条泰時は，評定衆とはかって御成敗式目(貞永式目)51ケ条を制定した。泰時の書状には，式目制定の趣旨について，次のように書かれている。

さてこの式目をつくられ候事は，なにを本説(ほんせつ)として注し載せらるるの由，人さだめて謗難(ぼうなん)を加うる事候か。ま事(こと)にさせる本文にすがりたる事候はねども，たゞ [(ウ)] のおすところを記され候者也。かやうに兼日(けんじつ)にさだめ候はずして，或はことの理非をつぎにして其人のつよきよはきにより，或は，御裁許ふりたる事をわすらかしておこしたて候。かくのごとく候ゆへに，かねて御成敗の躰をさだめて，人の高下(こうげ)を論ぜず，偏頗なく裁定せられ候はんために，子細記録しをかれ候者也。この状は法令のおしへに違するところなど少々候へども，…(中略)この式目は，…(中略)あまねく人に心えやすからせんために，武家の人へのはからひのためばかりに候。これによりて，京都の御沙汰，[(エ)] のおきて聊(いささか)もあらたまるべきにあらず候也。

問(4) 武家社会最初の成文法である貞永式目は，源頼朝以来の先例や [(ウ)] を基準としていた。空欄(ウ)に該当する語句を，漢字2字で記しなさい。

問(5) 空欄(エ)に該当する語句を，漢字2字で記しなさい。

問(6) この泰時の書状は，弟の重時に宛てられたものであるが，当時の重時の役職は何か，役職名を記しなさい。

C

室町時代の農業の特色は，民衆の生活と結びついて土地の生産性を向上させる経営の集約化と多角化が進められたことにあった。水車などによる灌漑や排水の技術の改良により，水田の二毛作は関東まで広がり，15 世紀に入ると，畿内では二毛作に加え三毛作も行われていた(b)。また，水稲の品種が改良され，早稲・中稲・晩稲の作付けも普及した。

この時代には商業の発達も著しく，祇園社の綿座，北野神社の酒麹座，大山崎離宮八幡宮の [(オ)] 座などの座がめざましい発展をとげた。座は，寺社・公家を本所として一定の貢納物を納める代わりに，関銭の免除や広範囲の独占的販売権を認められていた。

問(7)　空欄(オ)に該当する語句を記しなさい。

問(8)　下線部(b)に関して，『老松堂日本行録』には，「日本の農家は，秋に畠(た)を耕して大小麦を種(ま)き，明年初夏に大小麦を刈りて苗種を種き，秋初に稲を刈りて [(カ)] を種き，冬初に [(カ)] を刈りて大小麦を種く。一畠に一年三たび種く。乃(すなわ)ち川塞(ふさ)がれば則ち畠と為し，川決すれば則ち田と為す。」と書かれており，摂津尼崎で三毛作が行われていることに驚嘆している。空欄(カ)に該当する語句を，ひらがなで記しなさい。

D

南北町の動乱のころ，対馬・壱岐・肥前松浦地方の住民を中心とした海賊集団(c)が，朝鮮半島や中国大陸の沿岸を襲い，恐れられていた。朝鮮半島では，[(キ)] がこうした海賊を撃退して名を挙げ，1392 年，高麗を倒して朝鮮を建てた。この朝鮮もまた，中国の明と同様に，日本に対して通交と海賊の禁止を求め，足利義満もこれに応じたので，両国の間で国交が開かれることとなった。

問(9)　下線部(c)の海賊集団は何と呼ばれていたか，該当する語句を記しなさい。

問(10)　空欄(キ)に該当する人名を記しなさい。

〔Ⅱ〕 次の(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)の各ブロックの文中の空欄(番号が付された箇所)に，各ブロックの語群からもっとも適当と思われる語を選んで，その記号を解答欄(解答用紙裏面)にマークしなさい。

(ア) 592年，女帝の [1] 天皇が即位すると，蘇我馬子や厩戸王らが協力して国家組織の形成を進め，603年に冠位十二階，604年には憲法十七条が定められた。前者は個人に対して冠位を与えることで，それまでの氏族単位の組織を再編成しようとしたものであり，また後者の第二条には「篤く三宝を敬へ」と定めて，[2] を政治理念として重んじた。中国との外交も再開され，607年には遣隋使として小野妹子が派遣された。遣隋使に同行した [3] ら留学生や学問僧は，中国の新知識を伝えて7世紀半ば以降の政治文化に大きな影響を及ぼした。

〔語　群〕

A　粟田真人	B　神　道	C　仏　教	D　阿倍仲麻呂
E　孝　謙	F　犬上御田鍬	G　儒　教	H　和
I　徳	J　推　古	K　高向玄理	L　称　徳
M　聖　武	N　道　教	O　崇　峻	P　人材登用

(イ) 江戸時代も17世紀後半にはいると，幕政も安定し，武力抑圧の政策が転換されていった。

幕政の中心に目を向けると，4代将軍徳川家綱のときに，幕政の実権が譜代の重臣の手に移った。はじめは [　　] らが将軍家綱を支え，政治にあたっていたが，その後，[4] が大老となり，「下馬将軍」と呼ばれるほどに権勢をふるった。

1680(延宝8)年に5代将軍になった徳川綱吉は，それまで賄賂政治などで非難を集めていた [4] をしりぞけ，[5] を大老として幕政を補佐させた。将軍親政の体制をうちたてようとする綱吉の意向のもと，将軍側近の勢力が高まることとなり，中でも [　　] は，[5] の暗殺後，大老格となって権勢をふるった。

〔語　群〕

A　阿部忠秋	B　池田光政	C　板倉重昌	D　稲葉正休
E　酒井忠清	F　徳川光圀	G　徳川義直	H　保科正之
I　堀田正盛	J　堀田正俊	K　前田綱紀	L　酒井忠勝
M　松平信綱	N　松平光長	O　酒井忠世	P　柳沢吉保

(ウ)　綱吉の時代には，金銀の産出量が減少したことや，明暦の大火後に江戸城を再建したことなどで出費が増大したことで，幕府財政が窮乏に陥ることになった。

そこで綱吉は，勘定吟味役の［ 6 ］の貨幣改鋳の上申をいれ，慶長金銀を改鋳して元禄金銀を発行した。これにより幕府は一時的に増収をあげたが，貨幣価値の下落は，物価の騰貴をまねき，インフレーションを引き起こす結果となった。

1709(宝永6)年に綱吉が死去すると，6代将軍徳川家宣，7代将軍徳川家継は，側用人の［ 7 ］と朱子学者の［　　］を登用し，積極的に改革をおしすすめた。財政問題については，改鋳前の小判と金含有率が同じ小判を鋳造して物価の安定をはかろうとした。そのほかには，東山天皇の皇子直仁親王を立てて，［ 8 ］家を創設し，将軍の威信を高めようとした。

〔語　群〕

A　新井白石	B　有栖川宮	C　荻生徂徠	D　荻原重秀
E　閑院宮	F　吉良義央	G　京極宮	H　田中丘隅
I　田沼意次	J　林羅山	K　林鵞峰	L　林信篤
M　伏見宮	N　間部詮房	O　室鳩巣	P　山崎闇斎

(エ) 江戸時代においては，産業の発展，貨幣制度の整備などにともなって，商業が飛躍的に発展した。

諸藩や旗本は大坂に［　　］をおき，そこに集められた年貢米や特産物である［ 9 ］を商品として販売し，またはこれを担保にして金を借りたりした。［　　］は，［ 9 ］の出納や売却を行う［　　］や，［ 9 ］の売却代金の保管や送金を扱う［ 10 ］らによって構成され，これらのもののなかからは，大名などに貸し付けるものも出現するようになった。一方，江戸には，旗本や御家人の禄米の受取り・販売を行う［　　］と呼ばれる商人が活躍した。彼らはやがてこれらの武士への金融も行うようになり，莫大な利益をあげるようになった。

〔語　群〕

A　借　上	B　掛　屋	C　株仲間	D　蔵　元
E　蔵　前	F　蔵　物	G　蔵屋敷	H　助　郷
I　高掛物	J　社　倉	K　問　丸	L　土　倉
M　仲　買	N　納屋物	O　札　差	P　本途物成

〔Ⅲ〕 次のAからCの各文(一部変更を加えている)を読んで，それぞれの設問に答えなさい。答えは，解答欄に記入しなさい。

A

第一条　今より後，両国末永く真実懇にして，おのおの其の所領に於て互いに保護し，人命は勿論，什物に於ても損害なかるべし。

第二条　今より後，日本国と魯西亜国との境，「エトロプ」島と「ウルツプ」島との間に在るべし。「エトロプ」全島は日本に属し，「ウルツプ」全島，夫より北の方「クリル」諸島は魯西亜に属す。「カラフト」島に至りては，日本国と魯西亜国との間に於て界を分たず，是まで仕来の通たるべし。

第三条　日本政府，魯西亜船の為に［　(ア)　］，下田，長崎の三港を開く。

第八条　魯西亜人の日本国に在る，日本人の魯西亜国に在る，是を待つ事緩優にして禁錮する事なし。然れ共，若し法を犯す者あらば，是を取押へ処置するに，おのおの其の本国の法度を以てすべし。

第九条　両国近隣の故を以て，日本国にて向後他国へ許す処の諸件は，同時に魯西亜人にも差免すべし。

(『幕末外国関係文書』)

問(1)　1854(安政1)年12月に下田において結ばれたこの条約は何と呼ばれているか。

問(2)　空欄(ア)に該当する歴史的地名を記しなさい。

問(3)　第八条は，犯罪者に対して「おのおの其の本国の法度を以てすべし」として，双務的な［　(イ)　］を定めた規定である。空欄(イ)にはいる適切な語句を漢字5字で答えなさい。

問(4)　第九条において，幕府は相手国に対して，「他国へ許す処の諸件は，同時に魯西亜人にも差免すべし」として，片務的な［　(ウ)　］を認めた。空欄(ウ)にはいる適切な語句を，漢字5字で答えなさい。

B

新聞紙の伝ふるところに拠(よ)ると，現内閣(a)は［ (エ) ］に対する枢密院及び貴族院の反対的態度を緩和するために，治安維持法の制定を思ひ附(つ)いたのだ，といふことである。が，［ (エ) ］の如き国民一般から熱心なる支持を得て居るものをして議会を通過せしめるために，少くともその立法の精神に於(おい)て極度に非立憲的な治安維持法の制定を交換条件として，態々(わざわざ)持ち出さなければならないといふやうな必要は，一体どこから湧(わ)いて出て来たものであるか？…(中略)

更らにまた，矢張り新聞紙上に伝へられたところに拠ると，治安維持法の制定は，［ (オ) ］の成立を見越して画策されたものだ，といふことである。若(も)しこの報道が事実に当つてゐるものとするならば，それもまた，近頃奇怪千万なことだ，といはなければならぬ。

［ (オ) ］の成立を見越して，といふ以上は，それは例の赤化(せきか)宣伝の防止の必要といふ問題が，現内閣(a)の人々の意中に蟠(わだかま)つてゐたからのことでなければならぬ。

(大山郁夫「呪はれたる治安維持法」)

問(5)　下線部(a)の「現内閣」について，首相の姓名を記しなさい。

問(6)　空欄(エ)に該当する語句を，漢字5字で答えなさい。

問(7)　空欄(オ)は1925(大正14)年1月に結ばれた条約をさしているが，条約名を漢字6字で記しなさい。

C

天佑ヲ保有シ万世一系ノ皇祚ヲ践メル大日本帝国天皇ハ，昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス。朕茲ニ米国及英国ニ対シテ戦ヲ宣ス。…(中略)…中華民国政府曩ニ帝国ノ真意ヲ解セズ，濫ニ事ヲ構ヘテ東亜ノ平和ヲ攪乱シ，遂ニ帝国ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ，茲ニ四年有余ヲ経タリ。幸ニ国民政府更新スルアリ，帝国ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ビ，相提携スルニ至レルモ，重慶ニ残存スル政権ハ，米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未ダ牆ニ相鬩グヲ悛メズ，米英両国ハ残存政権ヲ支援シテ東亜ノ禍乱ヲ助長シ，平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス。

(『日本外交年表竝主要文書』)

問(8)　下線部(b)について，1937(昭和12)年7月に北京郊外で起きた事件は何と呼ばれているか。

問(9)　下線部(c)について，1940(昭和15)年に日本が南京につくった傀儡政権の中心人物は誰か。

問(10)　下線部(d)について，中心人物は誰か。

〔Ⅳ〕 次の(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)の各ブロックの文中の空欄(番号が付された箇所)に，各ブロックの語群からもっとも適当と思われる語を選んで，その記号を解答欄(解答用紙裏面)にマークしなさい。

(ア) 1931(昭和6)年に始まった満州事変をきっかけに日本国内でナショナリズムが高揚すると，社会主義運動が弾圧されるだけでなく，自由主義・民主主義的な学問への弾圧も強まった。例えば，1933(昭和8)年には，自由主義的刑法学説をとなえていた [1] 京都帝大教授が，[ ] 文相の圧力によって休職処分を受けた。

また，[ ] は天皇機関説をとなえて，天皇主権説を支持する [ ] たちと論争を行った。天皇機関説は明治憲法体制の下での正統的学説であったが，1935(昭和10)年に貴族院において，[ ] がこれを反国体的であると非難すると，全国的に激しい排撃運動が起こり，[2] 内閣は国体明徴声明を出して，この学説を否認するにいたった。

〔語　群〕

A　穂積八束	B　菊池武夫	C　宇垣一成	D　滝川幸辰
E　美濃部達吉	F　牧野英一	G　岡田啓介	H　米内光政
I　田中義一	J　林銑十郎	K　広田弘毅	L　斎藤実
M　上杉慎吉	N　吉野作造	O　佐々木惣一	P　鳩山一郎

(イ) 1939(昭和14)年9月に第二次世界大戦が始まり，ヨーロッパでドイツが優勢になると，日本ではドイツと結びついてアメリカ・イギリスに対抗し，南方の資源を確保しようという主張が強まった。そこで，1940(昭和15)年7月に［　　］が首相に就任すると，同年9月，日本軍は北部仏印に進駐し，また，ほぼ同時に［　　］を締結した。アメリカはこの締結に反発し，対日姿勢をさらに硬化させた。1941(昭和16)年になると，［　　］外相が，［ 3 ］を結ぶ一方，［　　］内閣は日米交渉を継続した。

しかし，同年に南部仏印進駐が実行されると，アメリカは在米日本資産を凍結し，さらに日本に対する石油の輸出を禁止した。そのため日本の軍部に開戦論が強まり，同年9月6日の御前会議において，対米交渉の成果が上がらない場合には対米開戦に踏切るという決定がなされた。日本政府内では，日米交渉の妥結を望む［　　］首相と，交渉打切り・対米開戦を主張する［　　］陸相が対立し，同年10月に［　　］内閣は総辞職した。そこで，［ 4 ］内大臣は，同年9月6日における御前会議決定の白紙還元を条件として，陸相を後継の首相に推挙した。新しく成立した［　　］内閣はさらに対米交渉を継続したが，結果的に不調に終わり，同年12月8日，アメリカ・イギリスに対する戦争が開始された。

〔語　群〕

A　東郷茂徳	B　重光葵	C　日独伊三国同盟
D　木戸幸一	E　近衛文麿	F　鈴木貫太郎
G　日独伊防共協定	H　小磯国昭	I　平沼騏一郎
J　日ソ中立条約	K　東条英機	L　西園寺公望
M　日中軍事停戦協定	N　日仏協定	O　松岡洋右
P　日独防共協定		

(ウ) 第二次世界大戦後，[　　]内閣は，独立・講和の時期をめぐって，ソ連・中国を含む全交戦国との全面講和を望む主張をしりぞけ，1951(昭和26)年に西側諸国48カ国との間でサンフランシスコ平和条約を調印した。その結果，日本は独立国としての主権を回復することになったが，いくつかの諸島は依然として返還されず，アメリカの施政権下におかれた。また，同年に日本とアメリカとの間で[　　]が締結され，独立後も日本国内にアメリカ軍が「[5]の平和と安全」のために駐留を続けることとされた。

しかし，その後，[　　]内閣は，日米関係をより対等にするために[　　]の改定を目指してアメリカと交渉を続けた。交渉の結果，1960(昭和35)年1月に[6]が調印され，アメリカの日本防衛義務の明文化，在日アメリカ軍の[5]および日本における軍事行動に関する事前協議制などが規定された。

1965(昭和40)年以降，ベトナム戦争の激化とともに，日本本土や[　　]はアメリカ軍の前線基地となり，[　　]の返還問題が改めて意識されるようになった。そこで日本政府は，非核三原則を明確にしてアメリカとの交渉を進め，まず1968(昭和43)年に[7]の返還を実現し，翌年に[8]首相とニクソン大統領が会談を行って，「核抜き」(今日では，「密約」の存在が取り沙汰されている)の[　　]返還で合意すると，1971(昭和46)年には[　　]返還協定が調印され，日本への復帰がようやく実現した。しかし，[　　]におけるアメリカ軍基地のほとんどは復帰後も返還されなかった。

〔語　群〕

A　東南アジア	B　日米安全保障条約	C　奄美諸島
D　池田勇人	E　日米相互協力及び安全保障条約	
F　吉田茂	G　岸信介	H　極　東
I　沖　縄	J　太平洋	K　石橋湛山
L　台　湾	M　小笠原諸島	N　日米行政協定
O　日米相互防衛援助協定	P　佐藤栄作	

(エ) 1950(昭和25)年に始まった朝鮮戦争による [　　] 景気に基づいて経済が復興してくると，1952年(昭和27)年に日本は [　　] への加盟を果たした。[　　] を中心とした体制の下で，西欧各国の経済は基軸通貨ドルによって結び付き繁栄を続けたが，日本経済も1955(昭和30)年に [9] 景気と呼ばれる大型景気を迎え，急速な成長を続けた。

しかし，1971(昭和46)年にアメリカが金とドルの交換を停止すると，西欧各国に続いて日本も1973(昭和48)年に変動為替相場制に移行した。これ以降，円高傾向は続いていたが，1985(昭和60)年に [10] において取り決められたプラザ合意によってさらに円高が進み，輸出産業が打撃を受けた。日本経済は，円高による不況を克服する過程において生産性を高め，新しい技術の導入を進めたが，他方で超低金利政策を原因とする [　　] 経済を招いてしまい，株価や地価が投機的に高騰してしまった。

〔語　群〕

A　先進国首脳会議　　B　世界銀行　　C　国際通貨基金
D　世界貿易機関　　E　5カ国蔵相(財務相)中央銀行総裁会議
F　アジア・太平洋経済協力閣僚会議　　G　日米構造協議
H　岩　戸　　I　いざなぎ　　J　バブル
K　神　武　　L　主要国首脳会議
M　7カ国蔵相(財務相)中央銀行総裁会議　　N　オリンピック
O　特　需　　P　経済協力開発機構